第38回韓国日本近代学会国際学術発表大会 　　2018年10月20日・於東京農業大学オホーツク校舎

**福沢諭吉のアイヌ民族観―朝鮮人観と比較して**

静岡県立大学　平山　洋

**① 福沢諭吉のアイヌ民族観は、『文明論之概略』（1875）中の「野蛮」の説明がおそらくもっとも近い。**

「居に常処なく食に常食なし。便利を遂ふて群を成せども、便利尽くれば忽ち散じて痕を見ず。或は処を定めて農漁を勤め、衣食足らざるに非ずと雖ども器械の工夫を知らず、文字なきには非ざれども文学なるものなし。天然の力を恐れ、人為の恩威に依頼し、偶然の禍福を待つのみにて、身躬から工夫を運らす者なし。これを野蛮と名く。文明を去ること遠しと云ふ可し」（巻一）

→福沢自身はアイヌ民族（蝦夷人）と実際に交流したことはなかった。とはいえ幕臣時代に蝦夷地開拓に携わった人々と親しかったため、彼らからの情報をもとに、すでに西欧の思想界で一般化していた「文明」「半開」「野蛮」の区別をアイヌ民族にも適用し、彼らを「野蛮」と判定した。

**②「文明」「半開」「野蛮」の３分類はあくまで西洋文明を基準にしての区別であるから、西洋文明をもって文明の本質と考える福沢の立場からすると、朝鮮と日本はともに「半開」に属している。**

「農業の道大に開けて衣食具はらざるに非ず。家を建て都邑を設け、其外形は現に一国なれども、其内実を探れば不足するもの甚だ多し。文学盛なれども実学を勤る者少く、人間交際に就ては猜疑嫉妬の心深しと雖ども、事物の理を談ずるときには疑を発して不審を質すの勇なし。摸擬の細工は巧なれども新に物を造るの工夫に乏しく、旧を脩るを知て旧を改るを知らず。人間の交際に規則なきに非ざれども、習慣に圧倒せられて規則の体を成さず。これを半開と名く。未だ文明に達せざるなり」（巻一）

→福沢によれば、1870年代の朝鮮は日本とともに「半開」の位置にいるが、今後西洋文明の移入に努めれば「文明」へと至るのである。

**③福沢による「文明」の説明は以下の通り。**

「天地間の事物を規則の内に籠絡すれども、其内に在て自から活動を逞ふし、人の気風快発にして旧慣に惑溺せず、身躬から其身を支配して他の恩威に依頼せず、躬から徳を脩め躬から智を研き、古を慕はず今を足れりとせず、小安に安んぜずして未来の大成を謀り、進て退かず達して止まらず、学問の道は虚ならずして発明の基を開き、工商の業は日に盛にして幸福の源を深くし、人智は既に今日に用ひて其幾分を余し、以て後日の謀を為すものゝ如し。これを今の文明と云ふ。野蛮半開の有様を去ること遠しと云ふ可し」（巻一）

→上記の観点から福沢は朝鮮も日本もいまだ「文明」の域には達していないとする。

**④福沢は一般に言われる中華文明（儒教による文明）の価値を低く見ていた。**

→朝鮮が「文の国」であることを認めはするも、それをいくら極めたところで「半開」から脱することはできないと考えていた。

**⑤『文明論之概略』刊行時（1875）ともに「半開」の位置にあった朝鮮と日本の前後関係は、西洋文明摂取の進捗状況にある。**

→朝鮮は江華島条約（1876）以降だが、日本は日米修好通商条約（1858）以降なので、日本が先行している。

**⑥福沢は、アイヌ民族について、彼らが「野蛮」から抜け出すには時間はかかるとみていた。**

「人の智徳は教育に由て大に発達すと雖ども、唯其発達を助るのみにして、其智徳の根本を資る所は、祖先遺伝の能力と其生育の家風と其社会の公議輿論とに在り。蝦夷人の子を養ふて何程に教育するも其子一代にては迚も第一流の大学者たる可らず」（『徳育如何』1882）

→19世紀の当時にあっては、「獲得形質は遺伝しない」という今日の常識はいまだ常識とはなっていなかった。そのため、この遺伝能力の劣位についてのアイヌ民族への偏見を福沢自身の人間性に帰することはできない。福沢は当時の常識からそう述べたに過ぎず、その主張の本質はといえば、環境という出発点の差についての残念な真実の指摘にあったものと考えられる。

**⑦「半開」であるはずの朝鮮について、「野蛮」と評する場合がある。それはなぜか。**

「壮大の男子を殺すは尚忍ぶべしとするも、心身柔弱なる婦人女子と白髪半死の老翁老婆を刑場に引出し、東西の分ちもなき小児の首に縄を掛けて之を絞め殺すとは、果して如何なる心ぞや。 尚一歩を譲り老人婦人の如きは識別の精神あれば、身に犯罪の覚えなきも我子我良人が斯る身と為りし故に、我身も斯る災難に陥るものなりと、冤ながらも其冤を知りて死したることならんなれども、三歳 五歳の小児等は父母の手を離るるさえ泣き叫ぶの常なるに、荒々しき獄卒の手に掛り、雪霜吹き晒らしの城門外に引摺られて、細き首に縄を掛けらるる其時の情は如何なるべきや。 唯恐ろしき鬼に掴まれたる心地するのみにして、其索の窄まりて呼吸の絶ゆるまでは殺さるるものとは思わず、唯父母を慕い、兄弟を求め、父よ母よと呼び叫び、声を限りに泣入りて、絞索漸く窄まり、泣く声漸く微にして、終に絶命したることならん。 人間娑婆世界の地獄は朝鮮の京城に出現したり。 我輩は此国を目して野蛮と評せんよりも、寧ろ妖魔悪鬼の地獄国と云わんと欲する者なり。 而して此地獄国の当局者は誰ぞと尋るに、事大党政府の官吏にして、其後見の実力を有する者は即ち支那人なり」（「朝鮮独立党の処刑後編」1885年2月26付『時事新報』）

**⑧解釈１　福沢自身が編纂した明治版『福沢全集』所収の論説には、朝鮮を野蛮とする用例はない。**

→朝鮮を野蛮としたのは福沢が経営していた新聞時事新報の記者ではないか。

**⑨解釈１への反論　福沢作であるのが確実な朝鮮を野蛮とする記述がある**

→文体からいって「朝鮮独立党の処刑後編」は福沢作の可能性が高い。また、福沢作と確認されている新聞論説にも朝鮮を野蛮とする用例がある。

「近日世上に征韓の話あり。一と通り聞けば伐つ可き趣意もなきに非ず。野蠻なる朝鮮人なれば必ず我に向て無禮を加へたることもあらん。道理を述て解すこと能はざる相手なれば、伐つより外に術なしと云ふ説もあらん。加之これを伐たんと云ふ輩は敢て私心を挾むに非ず、愛國盡忠の赤心を事實に顯はさんとすることなれば、一概に之を咎む可らずと雖ども、國を愛するには之を愛するの法なかる可らず、忠を盡すには之を盡すの路を求めざる可らず。其法と路とを求るには、心を靜にして永遠の利害を察すること最も緊要なり。彼の手足の怪我を見て狼狽するが如きは思慮の足らざる人と云ふ可し。朝鮮交際の利害を論ずるには先づ其國柄を察せざる可らず。抑も此國を如何なるものぞと尋るに、亞細亞洲中の一小野蠻國にして、其文明の有樣は我日本に及ばざること遠しと云ふ可し」（「亜細亜諸国との和戦は我が栄辱に関わりなきの説」1875年10月6日付『報知新聞』）

**⑩解釈１への反論の反論　福沢の憤りや福沢以外の見解を示しているのではないか。**

→「朝鮮独立党の処刑後編」は、甲申政変（1884）の参加者への厳罰に対して憤るもの、「亜細亜諸国との…」は、征韓論に反対する立場から、征韓論者の見解を紹介する部分で使われている。

**⑪解釈２　福沢は当初は朝鮮国と共同歩調を取ろうとしていたが、甲申政変後から朝鮮侵略論者へと意見を変えたのではないか。その際半開国を侵略するのでは理が立たないので野蛮国に格下げしたのではないか。**

→第二次世界大戦後の左翼陣営に有力だった説である。

**⑫解釈２への反論 『時事新報』掲載の論説を追うと、朝鮮国はおおむね半開国とされるが、時折野蛮と評される場合がある。時期的にはっきり区切れるものではない。**

→日清戦争後にも、朝鮮の独立を擁護し、その文化を尊重する社説がある。

**⑬解釈３（平山説）　福沢は、朝鮮の国としての発展段階を一貫して「半開」としつつ、そこでの政策に過酷な側面があった場合、朝鮮の指導部を「野蛮」と評したのではないか。**

→そのように評価したとしても、民族蔑視にはあたらず、また、侵略への意志を示すものでもない。

**⑭まとめ　福沢のアイヌ人観は「野蛮」というものであるが、それは当時の文明史観を反映しているにすぎない。朝鮮については「半開」で一貫していて、国の発展段階を「野蛮」としたことはない。**

**→**福沢には朝鮮人の知己は多数いたが、アイヌ人と接触したことはなかった。アイヌ人評の根拠となっている考えはすべて伝聞であり、当時の一般的見解をあらわにしたものにすぎなかった。

**후쿠자와 유키치의 아이누 민족 관 - 조선인 관에 비해**

**① 福沢諭吉のアイヌ民族観は、『文明論之概略』（1875）中の「野蛮」の説明がおそらくもっとも近い。** **① 후쿠자와 유키치의 아이누 민족 관은 「문명론의 개략」(1875) 중 '야만'의 설명이 아마 가장 가깝다.** 福沢自身はアイヌ民族（蝦夷人）と実際に交流したことはなかった。 →후쿠자와 자신은 아이누 민족 (에조 인)과 실제로 교류 한 것은 아니었다. とはいえ幕臣時代に蝦夷地開拓に携わった人々と親しかったため、彼らからの情報をもとに、すでに西欧の思想界で一般化していた「文明」「半開」「野蛮」の区別をアイヌ民族にも適用し、彼らを「野蛮」と判定した。 하지만幕臣시대에 에조 개척에 종사 한 사람들과 친했던 때문에 그들로부터 정보를 바탕으로 이미 서구의 사상계에서 일반화했다 '문명' '반개' '야만'의 구별을 아이누 민족 에 적용하고 그들을 '야만'으로 판정했다.

**②** **「문명」 「반개 " '야만'의 3** **분류는 어디 까지나 서양 문명을 기준으로 구분이기 때문에 서양 문명을 가지고 문명의 본질과 생각 후쿠자와의 입장에서 볼 때 조선과 일본은 모두 '반개'로 속해있다.** →후쿠자와에 의하면, 1870 년대의 조선은 일본과 함께 '반개 "위치에 있지만, 향후 서양 문명의 이입에 힘 쓰면'문명 '에 이르는 것이다.

**③福沢による** **「文明」の説明は以下の通り。** **③ 후쿠자와의** **'문명'의 설명은 다음과 같다.** →위의 관점에서 후쿠자와는 조선도 일본도 아직 '문명'의 경지에 도달하지 않았다고한다.

**④** **福沢は一般に言われる中華文明（儒教による文明）の価値を低く見ていた。** **④** **후쿠자와는 일반적으로 말하는 중화 문명 (유교에 의한 문명)의 가치를 낮게보고 있었다.** → 조선이 "문장의 나라 '임을 인정은하는 것도, 그것을 아무리 다한 곳에'반개 '에서 벗어날 수 없다고 생각했다.

**⑤『文明論之概略』刊行時（1875）ともに「半開」の位置にあった朝鮮と日本の前後関係は、西洋文明摂取の進捗状況にある。** **⑤ 「문명론의 개략」간행시 (1875) 모두 '반개'의 위치에 있던 조선과 일본의 전후 관계는 서양 문명 섭취의 진행 상황에있다.** → 조선은 강화도 조약 (1874) 이후이지만, 일본은 미일 수호 통상 조약 (1858) 이후이므로 일본이 선행하고있다.

**⑥福沢は、** **アイヌ民族について、彼らが「野蛮」から抜け出すには時間はかかるとみていた。** **⑥ 후쿠자와는** **아이누 민족에 대해 그들이 '야만'에서 벗어나기에는 시간이 걸릴 것으로보고있다.** →19 세기 당시의 경우에는 "획득 형질은 유전하지 않는다 '는 오늘의 상식은 아직도 상식과는되지 않았다. そのため、この 遺伝能力の劣位についてのアイヌ民族への偏見を福沢自身の人間性に帰することはできない。 따라서이 유전 능력 열위에 대한 아이누 민족에 대한 편견을 후쿠자와 자신의 인간성에 기인 할 수 없다. 福沢は当時の常識からそう述べたに過ぎず、その主張の本質はといえば、環境という出発点の差についての残念な真実の指摘にあったものと考えられる。 후쿠자와는 당시의 상식에서 이렇게 말했다뿐, 그 주장의 본질은 말하기, 환경이라는 출발점의 차이에 대한 안타까운 진실의 지적에 있었던 것으로 생각된다.

**⑦ 「반개 "이어야 조선에 대해"야만적 "이라고 평한다 수있다.** **それはなぜか。** **그것은 왜?**

**⑧解釈１ 福沢自身が編纂した明治版『福沢全集』所収の論説には、朝鮮を野蛮とする用例はない。** **⑧ 해석 1 후쿠자와 자신이 편찬 한 메이지 판 「후쿠자와 전집」에 수록된 논설은 조선을야만하는 용례는 없다.** → 조선을 야만인이라고 한 것은 후쿠자와가 경영하고 있던 신문時事新報기자가 아닌가.

**⑧解釈１への反論 福沢作であるのが確実な朝鮮を野蛮とする記述がある** ⑨ **해석 1에 반박 후쿠자와 작인 것이 확실한 조선을야만하는 기술이있다** → 문체에서해서 "조선 독립당의 처형 후편"는 후쿠자와 작품의 가능성이 높다. また、福沢作と確認されている新聞論説にも朝鮮を野蛮とする用例がある。 또한 후쿠자와 작이 확인되는 신문 논설에도 조선을야만하는 용례가있다.

**⑨解釈１への反論の反論 福沢の憤りや福沢以外の見解を示しているのではないか。** ⑩ **해석 1에 반론의 반론 후쿠자와의 분노와 후쿠자와 이외의 견해를 나타내고있는 것은 아닐까.** → 「조선 독립당의 처형 후편 "는 갑신정변 (1884)의 참가자에 대한 엄벌에 대해 분노하는 것"아시아 국가들과의 ... '는 정한론에 반대하는 입장에서 정한 론자 의 견해를 소개하는 부분에서 사용되고있다.

**⑩解釈２ 福沢は当初は朝鮮国と共同歩調を取ろうとしていたが、甲申政変後から朝鮮侵略論者へと意見を変えたのではないか。** ⑪ **해석 2 후쿠자와는 처음에는 조선국과 공동 보조를 취하려했지만, 갑신정변 이후부터 조선 침략 주의자로 의견을 바꾼 것은 아닐까.** **その際半開国を侵略するのでは理が立たないので野蛮国に格下げしたのではないか。** **그 때 반 개국을 침략하는 것이 이치가 서지 않기 때문에야만 국가로 분류 한 것은 아닐까.** → 제 2 차 세계 대전 후 좌익 진영에 유력했던 설.

**⑪解釈２への反論 『時事新報』掲載の論説を追うと、朝鮮国はおおむね半開国とされるが、時折野蛮と評される場合がある。** ⑫ **해석 2에 반박 "時事新報」에 게재 된 논설을 쫓 으면 조선국은 대략 반 개국되는데, 때때로 야만인으로 평가 될 수있다.** **時期的にはっきり区切れるものではない。** **시기적으로 명확하게区切れる것은 아니다.** → 청일 전쟁 이후에도 조선의 독립을 옹호하고 그 문화를 존중하는 사설이있다.

**⑫解釈３（平山説） 福沢は、朝鮮の国としての発展段階を一貫して「半開」としつつ、そこでの政策に過酷な側面があった場合、朝鮮の指導部を「野蛮」と評したのではないか。** ⑬ **해석 3 (히라야마 설) 후쿠자와는 조선 국가로의 발전 단계를 일관되게 "반개"고하면서, 거기에서 정책 힘든 측면이 있었다면 조선의 지도부를 '야만'이라고 평했다 것이 아닌가.** → 그렇게 평가해도 민족 멸시에あたらず또한 침략에 대한 의지를 나타내는 것도 아니다.

**⑬まとめ 福沢のアイヌ人観は「野蛮」というものであるが、それは当時の文明史観を反映しているにすぎない。** ⑭ **정리 후쿠자와의 아이누 인 관은 '야만'이라는 것인데, 그것은 당시의 문명 사관을 반영하고있는 것에 지나지 않는다.** **朝鮮については「半開」で一貫していて、国の発展段階を「野蛮」としたことはない。** **조선 대해서는 「반개 '로 일관하고 있고, 국가의 발전 단계를'야만 '으로 한 것은 아니다.** **→** 후쿠자와는 조선인의지기는 다수 있었지만, 아이누 인과 접촉 한 것은 아니었다. アイヌ人評の根拠となっている考えはすべて伝聞であり、当時の一般的見解をあらわにしたものにすぎなかった。 아이누 인 평의 근거가되고있는 생각은 모든 소문으로 당시의 일반적인 견해를 드러냈다 것에 지나지 않았다.